



愛知県 理学療法学会誌

JOURNAL OF THE AICHI SOCIETY FOR PHYSICAL THERAPY

プログラム集

第30回愛知県理学療法学会 テーマ「30回の歩みと未来への挑戦 — 時代が求める理学療法科学の探究 —」

会期：2022年4月23日(土)～24日(日)

会場：名古屋国際会議場

主催：特定非営利活動法人 愛知県理学療法学会 共催：公益社団法人 愛知県理学療法士会
後援：愛知県，名古屋市，公益社団法人 愛知県医師会，一般社団法人 名古屋市医師会
公益社団法人 愛知県看護協会，一般社団法人 愛知県作業療法士会
一般社団法人 愛知県言語聴覚士会，社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会
社会福祉法人 名古屋市社会福祉協議会，一般社団法人 愛知県医療法人協会
一般社団法人 愛知県病院協会，中日新聞社

抄録集は第30回愛知県理学療法学会ホームページより
ダウンロードください



ごあいさつ

第30回愛知県理学療法学術大会

大会長 岸川 典明

(愛知医科大学病院)

このたび第30回愛知県理学療法学術大会大会長を拝命し、大変光栄に感じるとともに、その重責に身が引き締まる思いです。

愛知県理学療法学術大会の開催は平成2年に第1回の愛知県理学療法学会を開催して以来、今回で33年、30回(諸事情により開催中止年度あり)という節目を迎えます。本学術大会は、愛知県の理学療法士が年度末に集まる恒例行事として認識され、学術活動の活性化、会員相互の交流、ネットワークづくりに貢献し、演題数は約100題、参加者は約1000人以上の大規模な学術大会に成長して参りました。また、都道府県士会として唯一、日本学術会議協力学術研究団体の指定を受ける団体として登録されております。

30回を迎えるにあたり、例年と会場を異にして、また、期間も拡大し開催いたします。本学術大会は、記念大会としての位置付けだけではなく、本学術大会の在り方を準備委員会で検討し、会期の変更、急速に拡大する高齢化社会と医療・福祉の要請に理学療法が応えるため、また、未来を担う若手理学療法士の育成を目指し、テーマを「30回の歩みと未来への挑戦ー時代が求める理学療法科学の探究ー」といたしました。テーマである「未来への挑戦」に活かせる内容として満足していただける学術大会となるよう準備をしております。一般演題の他、特別講演、特別企画、市民公開講座、パネルディスカッション、シンポジウム、教育セミナー、各分野の匠の話を間近で聞けるMeet the Mentorなどの企画をご用意しております。参加者にとって聴講内容が理解しやすく、その内容が、各位の臨床および研究に生かすことができるものと考えております。一般演題では、口述発表形式のみとし、演題の中から準備委員会にて選出した研究および症例報告をセレクションセッションとして開催させていただくことになりました。会員の皆様におかれましては、今後の研究活動および研究報告のご参考にしていただければ幸いです。

新興感染症拡大の勢いは止まらず、予断を許さない状況ですが、現地開催とライブ配信を合わせたハイブリット形式での開催の他、後日オンデマンド配信でも視聴できるよう準備を進めています。

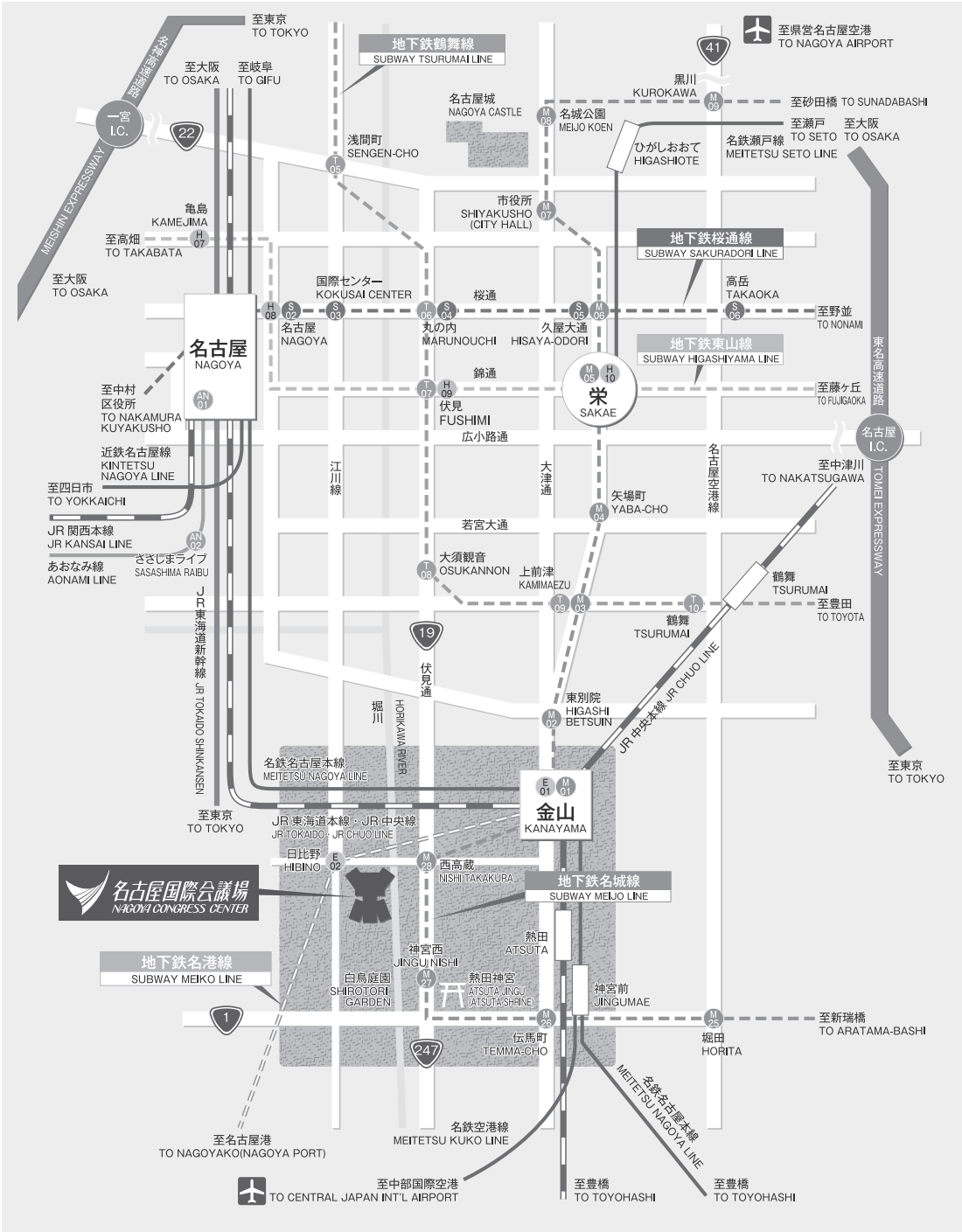
本学術大会を真に実り多きものにするためにも、多くの方々に本学会へご参加いただき、様々な学術交流を深めていただきたいと思います。

運営スタッフ一同、皆様のご参加を心からお待ち申し上げます。

目 次

会場への交通案内	1
会場案内	2
参加者へのご案内	3
座長・演者の方々へのご案内	6
日程表	8
式次第	10
プログラム	
❖ 大会長基調講演	11
❖ 特別講演 1	12
❖ 特別講演 2	13
❖ 特別企画	14
❖ パネルディスカッション	15
❖ シンポジウム	18
❖ 教育セミナー 1	21
❖ 教育セミナー 2	22
❖ Meet the Mentor	23
❖ 市民公開講座	24
【2022年4月23日(土)】	
❖ セレクションセッション(口述)	25
❖ 若手特別セッション(口述)	26
❖ 一般演題(口述)	27
【2022年4月24日(日)】	
❖ セレクションセッション(口述)	35
❖ 一般演題(口述)	35
組織図	39
運営委員	40

会場への交通案内



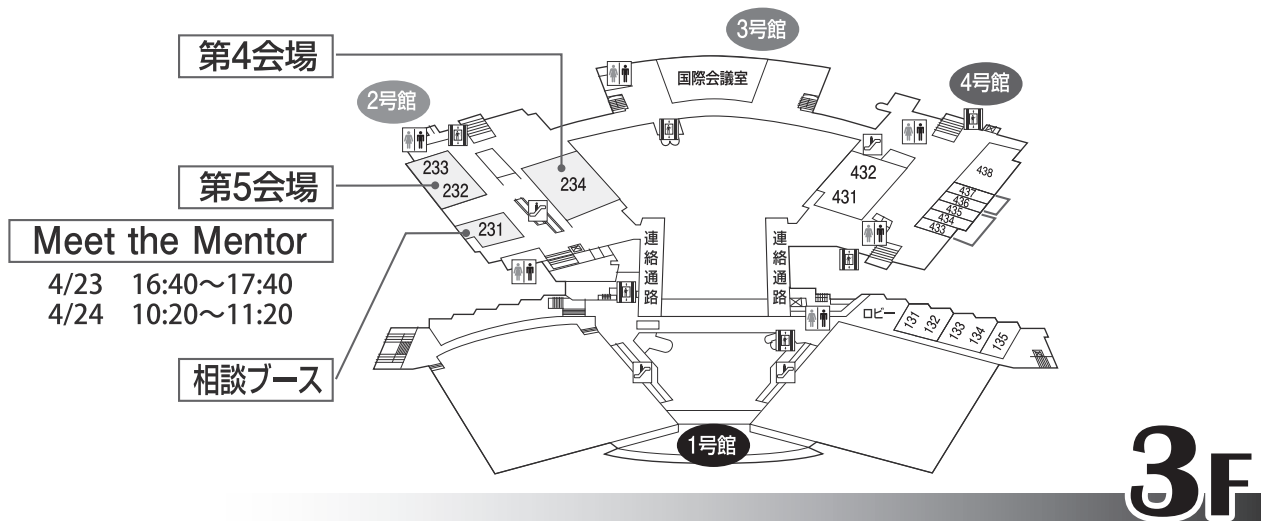
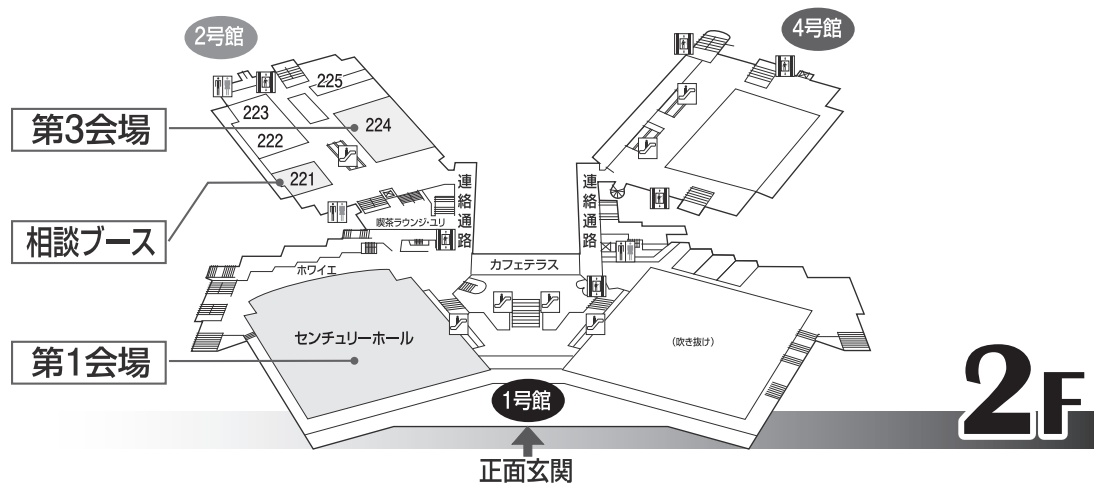
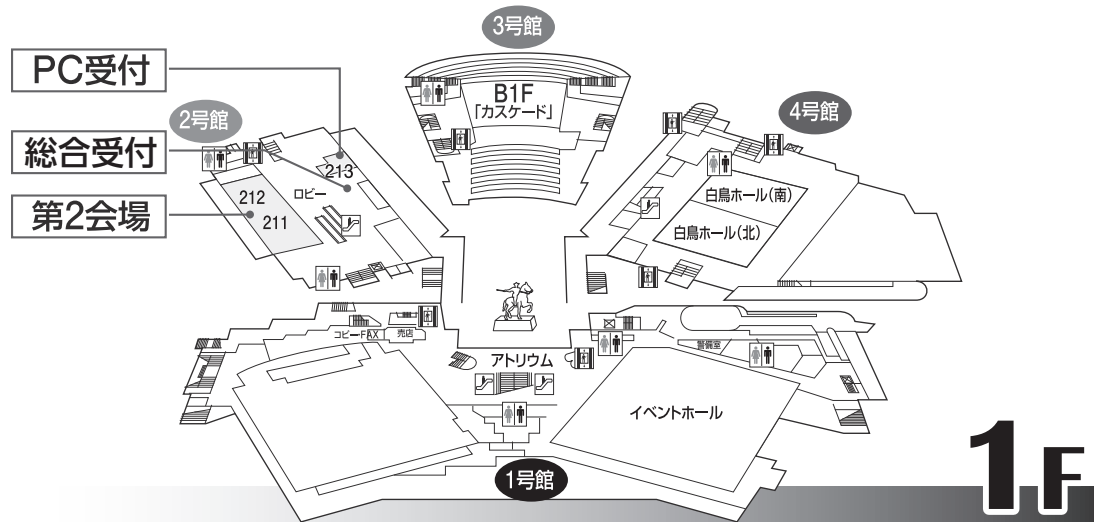
- ・開催日当日の催しものにより駐車場の混雑が予想されますので、公共交通機関をご利用ください。
- ・各主要駅から会場最寄駅までの乗換案内

名古屋駅から、金山經由で：「名古屋駅」から名鉄線・JR東海道本線・JR中央線「金山駅」で乗り換え、地下鉄名城線「西高蔵駅」(2番出口)もしくは地下鉄名港線「日比野駅」(1番出口)下車、駅から徒歩5分

名古屋駅から、栄経由で：「名古屋駅」から地下鉄東山線「栄駅」で乗り換え、地下鉄名城線「西高蔵駅」（2番出口）もしくは地下鉄名港線「日比野駅」（1番出口）下車、駅から徒歩5分

名古屋駅から、久屋大通経由で：「名古屋駅」から地下鉄桜通線「久屋大通駅」で乗り換え、地下鉄名城線「西高蔵駅」（2番出口）もしくは地下鉄名港線「日比野駅」（1番出口）下車、駅から徒歩5分

会場案内



参加者へのご案内

1. 開催方法

第30回愛知県理学療法学会大会は、2022年4月23日(土)、24日(日)の日程で開催いたします。本学会大会は、会場である名古屋国際会議場においての対面開催に加え、365日勤務体制等でやむなく会場での参加ができない方でもWEB(ライブ配信・オンデマンド配信)で参加できるハイブリッド型での開催方法を併用して開催いたします。

【各プログラムの開催方式】

セッション	4月23日～24日		5月上旬頃～(予定)
	現地開催	ライブ配信	オンデマンド配信
開会式, 閉会式, 表彰式 大会長基調講演, 市民公開講座	○	○	○
特別講演1, 2 特別企画 パネルディスカッション シンポジウム 教育セミナー1, 2	○	○	○
Meet the Mentor	○	×	×
セレクションセッション 若手特別セッション	○	○	○
口述セッション	○	×	×

2. 参加登録(※事前参加登録のみ)

第30回愛知県理学療法学会大会ホームページからWeb受付をお願いいたします。

区分	JPTA会員 ※愛知県士会以外も可	非会員			
		既卒 理学療法士	他職種	新卒 理学療法士 2022年3月卒	理学療法士 養成校在学学生
参加費	3,000円	6,000円	5,000円	1,000円	1,000円
参加形式	現地参加・WEB参加 どちらも可 ※オンデマンド配信含む	現地参加・WEB参加 どちらも可 ※オンデマンド配信含む			WEB参加のみ ※オンデマンド 配信含む
登録期間	(1) カード決済 2022年3月15日～4月24日 (2) 現金振り込み 2022年3月15日～4月24日	(1) カード決済 2022年3月15日～4月24日 (2) 現金振り込み 2022年3月15日～4月24日			養成校ごとで 手続き

3. 当日来場者の参加受付

- ・2号館1階の総合受付にて、8:30から受付を開始します。
- ・受付の際、日本理学療法士協会会員証をお持ちの方は必ずご持参ください。
- ・受付手続きが完了しましたら参加証をお渡しします。参加証はネームホルダーに入れて見えるように着用ください。

4. 新生涯学習制度におけるポイント取得について

本学術大会では、2022年4月から開始となる新生涯学習制度の登録理学療法士の更新にかかるポイント取得ならびに認定・専門理学療法士の更新にかかる履修点数が取得できます。詳細は学術大会ホームページをご参照ください。また県士会ニュース、メール通信でもお知らせいたします。

5. 会場内でのお願い

- ・必ず見える位置に参加証をお付けください。
- ・携帯電話の使用は進行上の妨げとなりますので電源をお切り頂くか、マナーモードに設定してください。
- ・建物内はすべて禁煙です。所定の場所以外での喫煙はご遠慮ください。
- ・発表会場内での飲食はご遠慮ください。
- ・各会場におけるカメラ・ビデオ撮影(カメラ付き携帯電話を含む)・録音等は、講演者や発表者の著作権保護や対象者のプライバシー保護のため、禁止させていただきます。

6. 駐車場

- ・当会場ならびに周辺の駐車場には限りがございます。極力、公共交通機関をご利用ください。

7. 託児支援について

今回の大会では新型コロナウイルス感染症対応のため、会場内に託児室を設けておりません。従来制度に代わり、今大会では新たな託児支援制度を設けておりますので、希望される方は2022年3月31日(木)17:00までにメール(apta30@pt-aichi.jp)にてご相談ください。

8. 相談ブースについて

期間中2号館の2階221号室、3階231号室にて公益社団法人愛知県理学療法士会およびNPO法人愛知県理学療法学会の各部局による相談ブースを開設いたします。開催日時や内容、受付方法などの詳細は県士会メール通信および学術大会ホームページをご参照ください。

担当部局	企画内容
愛知県理学療法士会 産業保健事業部	チラシ配布
愛知県理学療法士会 医療保険事業部・介護保険事業部	診療報酬改定 相談会
愛知県理学療法士会 生涯学習部 NPO法人愛知県理学療法学会 教育研修部	認定・専門理学療法士制度／新生涯学習制度の説明・相談ブース
NPO法人愛知県理学療法学会 研究者育成開発部	理学療法研究を学べる大学院の紹介 理学療法の研究に関する相談会
NPO法人愛知県理学療法学会 渉外連携部	法人学会に関する質問相談コーナー

9. 新型コロナウイルス等感染症予防および拡散防止対策について

日本国内における新型コロナウイルス感染症の発生に関しまして、本学術大会では、政府、自治体、関係諸機関等から示される正確な情報の収集に努めるとともに、感染拡大の防止に細心の注意を払い、実施して参ります。会場へお越しいただく皆様におかれましても、感染防止策へのご理解とご協力を頂けますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。感染拡大予防の趣旨をご理解いただき、以下の通りご協力をお願いいたします。

◇当日現地で学術大会に参加される方は、事前に各所属施設の施設長または部署管理者に学術大会への参加に関する承諾を得ていただくようお願いいたします。

◇発熱症状や咳など体調がすぐれない方、本学術大会の開催日より14日以内に日本の入国規制国・地域への渡航歴がある方、渡航歴をお持ちの方と接触された方、いずれかに該当する方のご来場はお控え願います。なお発熱や風邪症状がある方は、入場をご遠慮いただくことがあります。

◇参加受付にサーモグラフィーを設置いたしますので検温にご協力ください。37.0度以上の方は別途非接触型の検温器で再度計測いたします。

◇感染防止の為、マスクのご準備・ご着用を必ずお願いいたします。また手洗い、手指消毒の徹底をお願いいたします。

◇会場入場口に消毒用アルコールの設置をいたします。十分な感染対策にご協力ください。

◇会場にて万が一体調が悪くなった場合、速やかにお近くのスタッフにお声がけください。

◇万一感染者が発生した場合の拡大防止のため、政府・自治体からの情報提供を求められた場合は、個人情報の取扱いに十分注意しつつ、必要に応じて参加者の方の個人情報を提供いたしますので予めご了承のうえご参加ください。

座長・演者の方々へのご案内

座長へのお願い

1. 担当セッション開始20分前までに総合受付にて座長受付を済ませ、セッション開始10分前までに次座長席へお越しください。
2. セレクション演題は発表時間10分、質疑応答4分です。
3. 若手特別セッション演題および一般演題は発表時間7分、質疑応答は4分です。
4. 担当セッションの発表が予定時間内に終了するように進行をしてください。
5. 発表内容が抄録と著しく異なる場合は、演者に対しその場で厳重に注意をしてください。
6. 今回から発表に際し動画の使用を許可しています。なお、発表中のトラブルによる動画映写が困難となった場合でも規定通りの発表時間での進行をお願いいたします。
7. 本学会では、優秀な演題に対し学術大会賞を表彰しております。座長には各セッションの中で優秀と思われる1演題の推薦をお願いします。推薦された演題の中から、NPO法人愛知県理学療法学会にて審査を行い、学術大会賞を次回大会において表彰致します。

口述発表演者へのお願い

《プレゼンテーションファイルの提出》

USB メモリに保存したデータを発表30分前までにPC受付(2号館1階会議室213号室)へお持ちください。

《PC受付時間》

4月23日(土) 8:30～16:00

4月24日(日) 8:30～9:50

《当日の注意事項》

1. 演題発表者は、セッション開始5分前までに演者席にお越しください。
2. 発表は大会主催者側で準備したWindowsコンピュータを使用して頂きます。プレゼンテーションソフトはMicrosoft PowerPointを用い、液晶プロジェクターを使用し発表して頂きます。コンピュータの持ち込みは禁止しますのでご了承ください。
3. 発表時、プレゼンテーションファイルの操作は演者自身で行ってください。
4. セレクション演題は発表時間10分、質疑応答4分です。
5. 若手特別セッション演題および一般演題は発表時間7分、質疑応答は4分です。
6. 発表終了1分前に、演台に設置されたランプが緑から黄色に変わり、終了の時点で赤色となります。発表時間の厳守をお願いします。
7. 本大会では発表に際し動画の使用を許可します。なお発表中のトラブルによる動画映写が困難となった場合でも決められた時間内で発表を完了してください。
8. セッション終了時まで、会場にて待機ください。

9. 発表に用いたファイルデータにつきましては、学術大会終了後に準備委員会が責任をもって破棄致します。
10. 新型コロナウイルス感染の流行により、所属施設から学術大会への出張許可が得られず現地参加ができない場合には、事前に大会事務局までご相談ください。

《プレゼンテーションファイル作成要項》

1. スライドの枚数は制限致しませんが、発表時間に収まるように注意してください。
2. プレゼンテーションファイルは、Microsoft PowerPoint 2010-2021 で再生できるように互換性を持たせて保存してください。
3. PCウイルス感染を防ぐため、ファイルは最新アップデートが適応されたコンピュータを使用して作成し、安全なUSBメモリに保存してご持参ください。
4. ファイル名は、「演題番号_演者名」としてください(例：「O12_60_理学太郎」)。
5. 当日Microsoft PowerPoint以外のプレゼンテーションソフトは使用できません。
6. 機種依存文字、外字は使用しないでください。
7. 予め一度保存した発表ファイルを他のコンピュータでも再生可能か動作確認をしておいてください。
8. 上記の内容に従って作成しなかった場合、当日正常にファイルが動かないなどトラブルが生じて一切責任は負えません。またファイルのトラブルによる時間延長もありませんのでご了承ください。

学術大会賞について

NPO愛知県理学療法学会では、本大会で最も優秀な演題に学術大会賞を授与しています。学術大会賞に選出された演題は士会ニュースおよびホームページにて発表し、次回の学術大会で表彰致します。

学術大会新人賞について

入会後3年以内の会員を対象に、選出された演題から「若手特別セッション」を組み、その発表演題の中から最も優秀と認められた演題を表彰します。本学術大会当日の表彰式にて執り行います。若手特別セッションで発表を終わられた演者は、セッション終了後係員の指示に従い、所定の場所にて待機をお願いいたします。

日 程 表 4月23日(土)

	1号館	2号館1階	2号館2階	2号館3階		2号館2階	2号館3階
	センチュリーホール	211+212	224	234	232+233	221	231
	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	相談ブース	相談ブース
	ハイブリット型	ハイブリット型	対面型	対面型	対面型	相談ブース	
10:00	10:00-10:20 開会式						
11:00	10:20-11:00 大会長基調講演 30回の歩みと未来への挑戦 ～時代が求める理学療法科学の探究～ 岸川 典明	10:20-11:20 セレクション1 特別セッション① (研究助成発表含む) OS-1～4 座長：江口 雅之	10:20-11:20 口述1 運動器① (股大腿骨) O1-1～5 座長：水谷 仁一	10:20-11:20 口述2 神経① O2-6～10 座長：神谷 昌孝	10:20-11:20 口述3 生活環境① O3-11～15 座長：井戸田 学	10:20-17:40 相談ブース	10:20-17:40 相談ブース
12:00	11:20-12:50 特別講演1 理学療法の未来を拓くために なすべきこと ～利用者本位に活動し、暮らし と生き方・生き様を支える～ 斉藤 秀之 司会：岸川 典明 星野 茂						
13:00	13:00-13:50 企業セミナー1						
14:00							
15:00	14:10-15:40 パネルディスカッション 新たな分野で理学療法士が 活躍する時代へ 神谷 秀明 森 優太 田辺 茂雄 司会：太田 進	14:10-15:10 口述 若手特別セッション YS-1～5 座長：矢澤 浩成 伊藤 直樹	14:10-15:10 口述4 運動器② (下腿足) O4-16～20 座長：篠田 光俊	14:10-15:10 口述5 運動器・神経① (歩行、脊髄) O5-21～25 座長：土山 和大	14:10-15:10 口述6 教育管理 O6-26～30 座長：松山 太士		
16:00	15:20-16:20 セレクション2 特別セッション② (研究助成発表含む) OS-5～8 座長：金井 章	15:20-16:20 口述7 運動器③ (神経/疼痛/歩行) O7-31～35 座長：城 由起子	15:20-16:20 口述8 内部障害① (呼吸) O8-36～40 座長：水野 陽太	15:20-16:20 口述9 神経② O9-41～45 座長：畑迫 茂樹			
17:00	16:20-17:00 特別企画 学術研究活動、真の成果は 政策実現にある 小川 克巳 司会：鳥山 喜之	16:30-17:30 教育セミナー1 パラスポーツ分野で理学療 法士が活躍する時代へ 鳥居 昭久 司会：宮川 博文	16:30-17:45 口述10 運動器④ (上肢) O10-46～51 座長：坂田 淳	16:30-17:45 口述11 運動器・神経② (脊髄1) O11-52～57 座長：長谷川 隆史	16:40-17:40 Meet the Mentor 2		
18:00	17:50-18:40 表彰式						

日 程 表 4月24日(日)

	1号館	2号館1階	2号館2階	2号館3階		2号館2階	2号館3階
	センチュリーホール	211 + 212	224	234	232 + 233	221	231
	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	相談ブース	相談ブース
	ハイブリット型	ハイブリット型	対面型	対面型	対面型	相談ブース	
9:00		9:00-10:00 セレクション3 特別セッション③ (症例報告) OS-9～12 座長：飯田 博己	9:00-10:00 口述12 運動器・神経③ (脊髄2) O12-58～62 座長：大古 拓史	9:00-9:50 口述13 運動器・基礎① O13-63～66 座長：伊藤 忠	9:00-10:00 口述14 生活環境② O14-67～71 座長：渡邊 良太	9:00-13:00 相談ブース	9:00-13:00 相談ブース
10:00	9:20-10:20 特別講演2 ガイドラインによる理学療法科学の課題と展望 赤坂 清和 司会：小川 智也						
11:00		10:20-11:20 教育セミナー2 理学療法業界の未来への挑戦のリアル 福谷 直人 司会：小山 樹	10:20-11:20 口述15 運動器・基礎② O15-72～76 座長：安井 淳一郎	10:20-11:20 口述16 内部障害② (心血管) O16-77～81 座長：土川 洋平	10:20-11:20 Meet the Mentor 3	10:20-11:20 Meet the Mentor 4	
12:00	11:10-12:50 シンポジウム 30回の歩みと未来への挑戦 ～さあ 研究マインドを磨こう！～ 竹中 菜々 阿部 浩明 森嶋 直人 司会：石田 和人 村上 忠洋						
13:00	12:50-13:00 閉会式						
14:00							
15:00							
16:00	15:00-16:00 市民公開講座 生きがいに繋がるリハビリテーション ～音楽と医療のコラボレーション～ 石垣 享 司会：岸川 典明						
17:00							

式 次 第

開会式

2022年4月23日(土) 10:00～10:20

1号館センチュリーホール(第1会場)

1. 開会の辞 第30回愛知県理学療法学会
準備委員長 海野 光信

2. 挨拶 第30回愛知県理学療法学会
大会長 岸川 典明

特定非営利活動法人 愛知県理学療法学会
理事長 石田 和人

表彰式

2022年4月23日(土) 17:50～18:40

1号館センチュリーホール(第1会場)

1. 学会功労賞 表彰

2. 第29回愛知県理学療法学会 学会大会賞 表彰

3. 第30回愛知県理学療法学会 学会大会新人賞 表彰

閉会式

2022年4月24日(日) 12:50～12:55

1号館センチュリーホール(第1会場)

閉会の辞 第30回愛知県理学療法学会
副大会長 小川 智也

大会長基調講演

30回の歩みと未来への挑戦 ～時代が求める理学療法科学の探究～

講師：愛知医科大学病院

岸川 典明

会場：第1会場（1号館センチュリーホール）

2022年4月23日（土） 10:20～11:00

平成2年3月4日 第1回愛知県理学療法学会が開催され、32年ののち令和4年4月23日、24日に第30回愛知県理学療法学会を開催することとなった。これまで学会大会を継続してきた特定非営利活動法人愛知県理学療法学会ならびに公益社団法人愛知県理学療法士会関係各位に敬意を表する次第である。

この度、30回記念大会を担当させていただくにあたり、本学会大会の在り方を準備委員会で検討し、急速に拡大する高齢化社会と医療・福祉の要請に理学療法が応えるため、また、未来を担う若手理学療法士の育成を目指し、テーマを「30回の歩みと未来への挑戦－時代が求める理学療法科学の探究－」とした。

大会長基調講演では、これまでの学会大会の歴史と成長、社会および保健医療制度の変遷に伴う理学療法界の進化についてふれるとともに、これからの時代を担う若手理学療法士および指導的立場にある先輩諸氏へ期待を込めて提言させていただくこととしたい。

未来の理学療法を歩んで行く参加者諸氏においては、これまで理学療法士として35年余りを経た者からのバトンを引き継ぎ、医療、福祉、教育分野のみならず学校保健、予防医学分野、先進的医療などへの関与、ロボットティクスなど様々な分野での理学療法の未来へのとびらを開き、そして未来への挑戦を始めていただきたい。

「若者よ、ビッグチャンスを逃すな！」*

*(丸川征四郎：第43回日本呼吸療法医学会学会集會 レジェンド講演タイトルより)

特別講演 1

理学療法の未来を拓くためになすべきこと ～利用者本位に活動し、くらしと生き方・生き様を支える～

講師：公益社団法人日本理学療法士協会

齊藤 秀之

司会：愛知医科大学病院

岸川 典明

蒲郡市民病院

星野 茂

会場：第1会場（1号館センチュリーホール）

2022年4月23日（土） 11:20 ～ 12:50

「健康づくり」「予防」「治療／介入」「療育」「リハビリテーション」の環境で理学療法が広く存在し、患者・利用者の直接的支援に限定されない理学療法の強みこそが我々の未来である。そこで、障害学と自立支援の専門家である理学療法のイメージを、「J. 自立」「P. ぴんぴんころり（尊厳ある終わり）」「T. 立つ・歩く」「A. 安心・安全」で示し、「国民の人生に寄り添い、くらしと生き方・生き様を支える」と私は宣言した。この実現に向けて、昭和・平成理学療法史の総決算が必要である。

1. 卒前養成教育の高度化・多様化と卒前教育・卒後研修のシームレス化

養成教育の4年制大学化を定時総会で議決した本会としては、養成教育の質を高めることは揺るがない。同時に、卒前教育と卒後研修における一定の水準を設定していくと共に、シームレスな仕組みを構築することが重要である。

2. 社会の要請と評価に連動する生涯学習制度

卒後研修は卒前教育の補習ではなく、社会の要請に呼応したものでなければならない。そして、社会実践や社会的評価に紐づく生涯学習制度として育てることが重要である。

3. 時代が求める法・制度改正と政策提言機能の強化

理学療法士が誕生した時代における理学療法と55年経過した現代の理学療法を取り巻く環境は大きく変化した。こうした社会の要請に応じた現状に即した制度・法の改正を正々堂々主張すべきである。

同時に、国際的に働ける環境の開拓、障害福祉分野でのプレゼンス強化、保険外理学療法の確立を主に次の10年に向けた樹を植える必要がある。

最後に、私たち理学療法士は、「国民本位の理学療法を信条とし、社会保障の基盤として活動し、国民の健康と幸福に寄り添っていく」ことを結びとし、象徴として「Physical Therapy, not Rehabilitation, not Massage」を提唱し、先達の2名の方（小川克巳氏、半田一登氏）と意見交換したい。

特別講演2

ガイドラインによる理学療法科学の課題と展望

講師：埼玉医科大学大学院 保健医療学部

理学療法学科

赤坂 清和

司会：公立陶生病院

小川 智也

会場：第1会場(1号館センチュリーホール)

2022年4月24日(日) 9:20～10:20

1400名を超える理学療法士および医師や看護師を始めとする外部委員にご協力いただき、2021年10月に理学療法ガイドライン第2版が出版された。多くの関係者より、第1版以来の改定出版を喜ぶ声や日本医療機能評価機構による『Minds診療ガイドライン作成マニュアル』に準拠したことによる苦労話を聞かせていただいている。2015年12月に分科学会の学術担当者が集まりキックオフミーティングを開催したが、我々の中でシステマティックレビュー(SR)やメタアナリシス(M)、そしてガイドライン作成についての経験や知識、そして理解が十分である委員が揃っていたわけではなく、ガイドラインとして掲載する内容について各分科学会の考え方も異なっていたため、多くの調整を行う必要があった。複数のクリニカルクエッション(CQ)を系統的に作成することや客観的な視点で検索式を作成すること、多くのCQに対してSRやMを実施して、ガイドラインの作法に合わせるなどについて数多くの課題が生じた。また、作成作業を円滑にすすめるためにSR研修会や推奨作成研修会を全国で開催した。また、資金のおよび時間的、人的課題による制約を受けた。その結果、CQに対するアウトカムとしてMによる推奨に加えて、理学療法の専門家として意見をまとめるステートメントという2つの形式により、CQ数は179、推奨文123、ステートメント56としてまとめた。

この理学療法ガイドライン第2版は、すべての理学療法士が修練すべき理学療法の科学的根拠や技術を示すものであり、真摯に対峙して理解を深める必要がある。そして、理学療法ガイドライン第2版が完全であるわけではなく、最大のメリットを考慮した結果の産物であることを意識し、内容についてはさらなる吟味を重ねるとともに、新しい重要なエビデンスに基づき改訂される必要がある。今後の理学療法ガイドラインはそれぞれの学術団体において作成することになっているので、出来るだけ多面的な準備を進めておくことが肝要である。

特別企画

学術研究活動，真の成果は政策実現にある

講師：参議院議員／日本理学療法士協会理事

小川 克巳

司会：愛知県理学療法士会 代表理事

鳥山 喜之

会場：第1会場（1号館センチュリーホール）

2022年4月23日（土） 16:20 ～ 17:00

「届いていたのは，ファイザーの報道発表だった。（略）ワクチン開発は通常10年がかりといわれる。麻疹患者からウイルスが1954年に分離されて最初のワクチンができるまでに9年かかった。だが発表は，中国・武漢での報告以来，わずか1年でワクチンの実用化が確実になったことを示していた。（略）圧倒的なスピード開発はなぜできたのか。かぎは，たんばく質の設計図（遺伝情報）のmRNAにある。ワクチンは，体に備わる免疫システムに偽の病原体を記憶させ，本物に備える予防法だ。従来の生ワクチンや不活化ワクチンは，時間をかけてウイルスを大量に培養し，原料にする。mRNAワクチンはまったく違い，mRNAを脂質の膜でくるむ。mRNAは合成でき，ウイルスの遺伝情報さえわかれば，ワクチンが作れる。基礎となる研究は，05年に発表された。しかし，当時は実用化できると思っていた人はほぼいなかった，と東京大学の石井健教授は言う。合成がむずかしい，分解されやすいといった技術的な課題がたくさんあったからだ。その壁を，この20年で飛躍的に進歩した生命科学が打ち破った。たとえばヒト1人の全遺伝情報が最初に解析されるまでに約13年，30億ドルがかかったが，今は1日，千ドル以下だ。（以下，略）」（朝日新聞2022年1月6日（木）未来のデザイン4いのち，より抜粋）

学術研究の成果が効果的に人類に福をもたらした直近の一例である。学術と職能は車の両輪であるとよく例えられ，耳にする機会も多い。しかし，両輪どころの関係性ではなく，表裏一体だと私は思っている。職能が職能として自立性，独自性，個別性を持つためには確固としたエビデンスがなければならない。職能を支えるのは学術研究によるエビデンスであり，職域を拡げるのも悉皆同様と言える。私たちが理学療法士固有の課題を解決しようとするときに必須のものは，その必然性や妥当性，そして効果を説明できるエビデンスであり，もうひとつは国民の支持である。この両者を満足させて初めて課題解決につながる。

パネルディスカッション

新たな分野で理学療法士が活躍する時代へ

講師：(株) Performance Reha	神谷 秀明
花の丘病院リハビリテーション科	森 優太
藤田医科大学保健衛生学部	田辺 茂雄
司会：星城大学	太田 進

会場：第1会場(1号館センチュリーホール)
2022年4月23日(土) 14:10～15:40

パネルディスカッション企画からのメッセージ

本パネルディスカッションのテーマを「新たな分野で理学療法士が活躍する時代へ」とさせて頂きました。2040年には理学療法士、作業療法士の供給数は需要数の約1.5倍になると2019年4月の厚労省・理学療法士・作業療法士需給分科会にて取りまとめられ、今までの医療機関、介護施設など以外で理学療法士が活躍する場が模索され始めました。理学療法士は、近年、より専門職として細分化している面もありますが、もともとジェネラリストとしての側面もあり、社会に貢献する分野は多くあります。そして、理学療法士が増えてきたからこそ、すでにかかわる分野の裾野も広がってきていると考えられます。

今回の企画では、まず学校保健、予防、ロボットをキーワードとして挙げ、その後に実際に活躍している講師を探しました。3人の先生方はそれぞれのキーワードの領域で大変活躍されており、まさに新しい分野の先駆者の方々です。本パネルディスカッションでは、現在のご活躍の内容はもちろんですが、次の時代に向けてどのように開拓をしていくと良いか、また継続して活躍するための経済的側面なども検討できればと考えております。本学会のテーマである「未来への挑戦」という視点から理学療法士が活躍できる新たな分野について熱く語ることができればと考えています。

学校スポーツトレーナーの6年間の活動報告

(株) Performance Reha 神谷 秀明

人生100年とその後の繋がりを良くするため課題を述べ、その課題の一つを解決する為の取り組みとして、小学校から中学校のゴールデンエイジに学校スポーツトレーナーとして豊橋の学校で活動してきた6年間の活動報告をする。

学校スポーツトレーナーとは生徒、家族、教員等に対して業務を行い、より良い学生生活を送る為のサポートをするトレーナーであり、活動理念は小中学校の生徒・教員をサポートし、医療費の削減、健康寿命を延ばし、スポーツ大国日本を作る準備をすることである。

業務内容は学生へ障害予防、アスレティックリハビリテーション指導、体育教員へ体育・新体力テスト、養護教諭へ運動器検診のサポート、生徒の自己管理方法の紹介、整形外科返答書の解説等のサポートを行っている。

学校の課題として小学校では専科でない先生も体育を教え、部活動の廃止により運動量の低下が認められる。運動嫌いな生徒は唯一運動をする時間が体育だからこそ、質の高い体育が必要である。

2年間は中学校1校をサポートし、障害発生件数・医療費の削減・スポーツテストの値が向上した。3年目はモデル中学校4校となり同様の結果が出た。5、6年目は小学校14校をサポートした。(昨年度約100時間、今年度約200時間を教育委員会から委託される)その際、先生からは感謝をされ、体育嫌いだった生徒から『体育の時間に笑顔』が見られた。

学校で活動をするために必要なことは、学校はあくまで『教育機関』であるということと、様々なルールを知らなければならない。これが出来なければ、どれだけ知識・技術があっても受け入れてもらえない。

今後の展望としては、PTは基礎医学・評価・動作分析等で、生徒・教員の強力なサポーターとして学校を支えることが出来ると考えている。豊橋では公立小中学校合わせて74校があるため、学校スポーツトレーナーは最低74人、全国規模では万単位のトレーナーが必要となる。

住民主体の通いの場で求められる役割とフレイル対策

花の丘病院 リハビリテーション科 森 優太

超高齢社会の日本において健康寿命延伸に向けた予防医療の取り組みは、非常に重要であることは明白である。その対策の一つとしてフレイル対策が注目されている。フレイルは、高齢期に生理的予備能が低下することによりストレスに対する脆弱性が亢進し、生活機能障害と要介護状態や死亡などの転帰に陥りやすい状態であり、これらの早期発見や対応が必要とされている。フレイル対策においては、個別機能回復訓練による直接的アプローチだけではなく、社会参加活動の一つであるサロンのような住民主体の通いの場(以下、通いの場)への参加が推奨されている。また、通いの場を活用した効果的な介護予防を進める方策として、集団教育や運動機能測定においてリハビリテーション専門職である理学療法士の関与の必要性が指摘されている。実際に、介護予防・日常生

活支援総合事業において、通いの場等を活用したポピュレーション戦略による地域リハビリテーション活動支援事業が掲げられ、市町村からの専門職の派遣依頼の実績では理学療法士の割合が多い。さらに、理学療法士が通いの場でフレイル対策に関与している実態も報告されている。しかし、通いの場への理学療法士の関与とその内容やフレイル対策の効果検証は端緒についたばかりである。そこで本講演では、我々の地域フィールドで実施している通いの場を活用したフレイル対策の取り組みを中心に紹介していく。具体的には、通いの場への理学療法士関与の有無による身体的プレフレイルから健常への移行率と健康関連指標の変化の取り組みについて触れる。加えて、高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施における理学療法士による通いの場への積極的な関与の方法について述べる。

本講演を通じて、多くの理学療法士が通いの場での関与や、社会実装することで、介護予防、フレイル対策としての一助となり得ることができ、予防理学療法がさらに発展、波及されることを期待する。

ロボットを含む支援機器開発・社会実装分野

藤田医科大学 保健衛生学部 リハビリテーション学科 田辺 茂雄

我が国の高齢者は2021年の段階で3640万人となっており、総人口に対する高齢者人口の割合は29.1%と世界で最も高くなっている。高齢化および人口構成の変化に伴い、要介護認定者数や高齢の夫婦または独居世帯数も著しく増加している。これら増加に伴い、高齢者の健康長寿の延伸や介護を支援する各種機器への需要はますます高まっている。その需要を満たすべく、国や県による積極的な開発支援策が実施されており、従来から支援機器を開発している企業が活発に取り組んでいるだけでなく、様々な専門技術や特殊素材を持つ異業種からの参入を目指す企業も増加してきていると体感している。この「活動を支援する各種機器の研究開発、製品化、社会実装」を促進する鍵は、この分野における理学療法士の更なる活躍であると考え、企業は、高齢者や患者の個々の要望をすべて満たすべく開発を進めがちであるが、求めるものがその方個人のものなのか、またはその高齢者層や患者層に広く求められているものなのか、といった理学療法士の知識や経験に基づく助言は企業にとって大変有益である。加えて、その要望がなぜ出てきたのか、解剖学、生理学、運動学、日常生活活動学などを含む理学療法学の観点から考察することで、要望の背景にある機序に基づいて真に有益な機器の開発を進めることが出来る。

本講演では、本学のロボティクススマートホーム・活動支援機器研究実証センターの取り組みなど、医工連携による支援機器開発・社会実装分野での理学療法士の活躍状況について、事例を用いながら紹介する。

シンポジウム

30回の歩みと未来への挑戦 ～さあ 研究マインドを磨こう！～

講師：京都大学 iPS細胞研究所

福島県立医科大学

豊橋市民病院

司会：豊橋創造大学

城見整形外科クリニック

竹中 菜々

阿部 浩明

森嶋 直人

石田 和人

村上 忠洋

会場：第1会場(1号館センチュリーホール)

2022年4月24日(日) 11:10～12:50

シンポジウム企画からのメッセージ

学術的活動の意義は、臨床を進めるうえでの問題を自ら発見し、それを解決していく力を身に付けることであり、こうした能力は専門職(プロフェッショナル)として生涯成長していくために必要なものであると考えます。愛知県理学療法学会(以下、県学会)では、愛知県理学療法士会員のこうした学術的活動の成果を発表する場として、1989年度に第1回目が開催され、今回、第30回の記念大会を迎えます。第1回県学会(1989年度開催)の演題発表数は41題で、その後およそ25～45題の間で推移し大きな変化がありませんでした。その後徐々に演題数は増加し、第25回県学会(2015年度開催)では100題を超える規模になりました。しかしながらこの間の会員数の増加を考えると、会員数に占める発表率は残念ながら低下している状況です。

こうした現状の課題を洗い出すために当シンポジウム事前アンケートの結果、研究発表していない方でも発表に対する興味は高く、まさに意欲はあるが一步を踏み出せない実態があります。また現在の職場環境は社会的な働き方改革の影響もあり、臨床業務に研究活動をどう位置付けるかは難しい課題となっています。そのためこれからの時代で若手を育てるために、従来のように強制的に研究活動を行わせるのではなく、主体的で能動的な活動を引き出していく必要があります。こうした動機を沸きあがらせるためには、身近な目標となる存在(ヒーロー)への憧れが大切と考え、最先端の基礎研究で活躍しておられる竹中菜々先生や、臨床の最前線で研究に取り組んでおられる阿部浩明先生のお話を聞く機会を作りました。またスタッフ一同でお互いを高め合いながら臨床研究活動に取り組んでこられている組織の運営に関わられている森嶋直人先生からお話しをしていただきます。

そして未来への挑戦として、会場やWebで参加者の皆さんとシンポジストと共に、研究マインドを磨き、研究活動に取り組んでいく未来について議論を交わしたいと思っております。

基礎研究者としての立場から

京都大学 iPS細胞研究所 竹中 菜々

「再生医療」という言葉に対して、どのような印象を抱かれますでしょうか？「理学療法とは関係がなさそう」、「よくわからない」、「現実味がない」,,, そんなお声が聞こえてくるのではないかと想像します。しかしながら、ここ数年間での再生医療研究の進展は目覚ましく、実臨床のすぐ近くまで迫っています。そしてさらには、先生方がご専門とされている理学療法の領域との融合を目指した再生医療研究も、現在、着実に進行しています。

私は2013年から、京都大学iPS細胞研究所で、骨格筋の難治性疾患に対する「再生医療」と「リハビリテーション」に関連した基礎研究を進めております。2013年当時は、当研究所に所属するPTは、私ただ一人でしたので、「理学療法？リハビリテーション？それとiPS細胞とに、どんな関係が？」と、疑問を投げかけられることも多くありました。それが、2022年現在では、学生も含め8人ものPT・OTが所属しており、皆同じ志を持って、「再生医療とリハビリテーション」に関する研究に邁進しております。そしてようやく研究所全体にも、「再生医療の臨床応用にはリハビリテーションが必須」との考えが浸透してきていることを日々感じます。

本日のシンポジウムでは、私がこれまで進めて参りました「難治性筋疾患に対する再生医療とリハビリテーション」に関する基礎研究の成果をご報告いたします。さらに、それと共に、現在世界中で進められている再生医療研究の最新情報をお伝えすることで、再生医療が現実的に臨床応用される時が、もう目の前まで来ているということ、そして、再生医療による治療効果を最大化するためには理学療法介入が必須であるということを実感していただける機会となれば大変うれしく思います。

また、当シンポジウムのテーマが「さあ、研究マインドを磨こう！」とのことですので、僭越ながら、私自身、どのようにして基礎研究者としての道を選び、そしてこれまで研究活動を続けてきたのかお話しさせていただきます。本講演が、研究活動を新たに始め、そして今後続けていくためのきっかけの一つとなることができたら、大変光栄に思います。

臨床のフィールドで進める研究についての提言

福島県立医科大学保健科学部 阿部 浩明

はたして小生が臨床で進める研究について提言するに相応しいのか、その問題は置いておいて、小生が臨床研究を本格的に進めてみようと思ったきっかけとなる出来事や、研究のテーマとして取り組んできた経緯などをお話しさせていただきたい。

就職して3年ほど経過した際に鹿児島県の地で開催された第35回日本理学療法士学会に演題を持って参加する機会を得た。参加意欲は鹿児島の地に訪れてみたいというものであった気がする。せっかく参加するのだから何かを得ようと抄録集をみていたところ、興味深い演題をみつけた。その内容は多くの教科書に書かれているような標準的な治療内容を否定する内容であった。当時、小生も同じように感じていたので強い衝撃を受けた。

発表者は30歳代の某大学附属病院に勤務している理学療法士で、“ある治療は実際にはほとんど効果がない・・・”とする、ある意味、挑戦的な発表がなされた。会場にいらっしゃった高名な先生から多くの批判的なコメントがあったが、その理学療法士は堂々と持論を展開していた。同じことを考えていた小生であったが、その事を発言したくても、発言できるデータがない、あるのは特定の症例の経過だけで、他人を説得できる客観的なものではない、自分が正しいと思うことを自ら調べ、証明し、報告する。その一人の臨床家としての姿に感銘を覚えたのである。壇上での批判的コメントに対して、自身のデータを持って理論的に返答するその姿を拝見すると、同じ理学療法士であることがなんだか恥ずかしいような気がした。いつか自分の考えをきちんと客観的なデータで示して発言する、そんな理学療法士になりたいと思ったのである。

治療に携わる臨床家だからこそ何が有効なのかを追求しようとする姿勢が求められるのではないだろうか。本講演では脳卒中重度片麻痺者に対する歩行再建における理学療法の在り方を中心に、小生らがこれまで模索してきた過程について紹介させていただきたい。

組織管理者からの提言

豊橋市民病院リハビリテーションセンター 森嶋 直人

「なんで研究ってするのですか?」「臨床ができれば良いのではないですか?」こんな声を若手スタッフから聞くことがあります。こんな時決まって「臨床家には生きた情報が必要だよ。それには学会で自分達のデータを報告して他の組織の皆さんに意見をもらい改善していく事が大切なんだ、生きた情報は情報を発信している所に集まってくるんだよ」と答えるようにしています。なぜそう思うのかを、組織管理者として求める人物像という観点から本シンポジウムでは紐解いてみたいと思います。

臨床家の本分は「臨床・研究・教育」とよく言われます。臨床・教育の必要性に関して異論はないと思いますが、研究に関してはいかがでしょう? 業務規定の中に「臨床研究」が加わっている施設は大学など一部の教育機関や施設以外はほとんどないと思います。したがって、臨床研究をしなくても業務実績には直接関係ないとも考えることもできます。

しかしながら我々医療に携わる者は、日々進歩する医学に基づいて良い理学療法を実践するため、生涯にわたり研鑽を重ねる事が必要になります。そのため臨床研究は我々理学療法士の専門技術者を研ぎ澄まし、進化させていくための重要な職務の一つであり、他人任せではなく自らが取り組むべきものだと思います。したがって、臨床で起こっている事例を詳しく説明し調べ考察する行為、すなわち臨床研究の考え方は我々理学療法士が必ず持っていなければならない行動規定とも言えます。

そんな臨床研究を表現する場として学会発表を考えてみますと、学会発表を経験することで①臨床研究者としての側面、②社会性を身につける側面、③人物評価への貢献があると考えています。本シンポジウムではこれらの3つの観点から学会発表の効能を考え、当院での取り組みをご紹介しますとともに、コロナ禍を経験した我々理学療法士の今後の職員研修についても述べてみたいと思います。

教育セミナー1

パラスポーツ分野で理学療法士が 活躍する時代へ

講師：東京保健医療専門職大学 リハビリテーション学部 鳥居 昭久
司会：愛知県理学療法士会 スポーツ理学療法運営担当 宮川 博文

会場：第2会場(2号館1階 211 + 212号室)

2022年4月23日(土) 16:30 ~ 17:30

昨夏、COVID19の猛威が収まらない中、東京2020オリンピック・パラリンピック(以下、東京大会)が無事に開催され、特に多くのパラアスリートの活躍が、国民に人間の可能性を知らしめたとともに、全国の障がい者やその家族、関係者に大きな勇気を与えてくれたことは記憶に新しいところです。

2013年9月にこの東京大会の開催が決まるとともに、パラリンピックを通して、障がい者のスポーツについてマスコミなどで取り上げられることが多くなり、障がい者のスポーツに対する国民の認知度は上昇し、障がい者がスポーツを楽しむ環境も広がりつつあります。

日本理学療法士協会は、この東京大会を全面的に支援を行う準備を進め、結果としてオリンピックとパラリンピックの全ての競技会場において理学療法士が支援活動をしました。その準備の段階で、改めて障がい者のスポーツに対して理学療法士の視線が多く向けられたこと自体が大変有意義であったと感じています。かつて、理学療法士のスポーツへの支援については、いわゆる健常者スポーツにおけるスポーツ外傷や障害の予防やアスレティックリハビリテーションに注目されがちでしたが、改めて障がい者のスポーツにおけるそれらとともに、障がい者固有の状態から考慮すべきトレーニングやコンディショニングを含めた特殊性に対して、理学療法士の役割が改めて認識されつつあることが特筆すべきことであろうと感じています。そもそも理学療法士の対象は“障害”そのものであり、その“障害を持っている人(障がい者)”であります。したがって、スポーツの実施によって障害を負った人も対象であるとときに、そもそも何らかの障害を持っている人がいかにスポーツをするか？についても理学療法士の役割であるはずなのです。また、脳や脊髄の中樞神経障害や、運動発達障害など、その原因がスポーツ以外の疾患による障害について専門の教育を受けているのは理学療法士だけですから、その点で考えると、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーなどのスポーツ支援に重点において養成されている資格であっても、このような障害を背景に持っているパラアスリートの支援は困難をとめない、まさしく、理学療法士こそが適任であると言わざるを得ないのです。

このセミナーでは、パラスポーツ分野における理学療法士の役割と展望について、一つの考え方をご紹介します。みなさんにも考えていただきたいと思います。

教育セミナー2

理学療法業界の未来への挑戦のリアル

講師：株式会社バックテック 福谷 直人
司会：株式会社ジェネラス 小山 樹

会場：第2会場(2号館1階 211 + 212号室)

2022年4月24日(日) 10:20 ~ 11:20

経済産業省が健康経営という新分野を立ち上げて以来、健康経営に取り組む企業は右肩上がりに増加しており、その活動を支援するように新たな形のヘルスケア産業も増加している。その中で、産業理学療法に関わる取り組みは、本大会のテーマでもある「未来へ挑戦」として重要テーマである。従来、医療介護現場で働いてきた我々からすると、右も左も知らない産業分野に足を踏み入れていくということは、まさしく、未来への挑戦であり、このまま挑戦をせず業界が停滞・衰退していくか、挑戦をして業界が発展・拡大するかは、現役世代の我々が今日1日をどう過ごすか次第である。

当社は、労働生産性向上・高ストレス対策を目的とした肩こり・腰痛予防対策支援サービス“ポケットセラピスト”を運営しており、企業/保険者にサービス提供をしながら、産業医/産業保健師と連携し、産業理学療法の実践を推進している。活動の中で感じるのは、産業領域において理学療法士の知見・ノウハウを必要としている企業は多いものの、理学療法士という存在をまず知られていなかったり、理学療法士がどのような価値提供ができるかを認知されていないため、営業力の強いトレーナー職に健康経営/産業保健マーケットを取られている。さらに、産業理学療法のイメージとして、オフィスや工場などの職場巡視を行い、リスクのある作業や腰痛予防対策の運動を指導するというようなものがあるが、コロナ禍で一般企業は社外からの立ち入りを原則禁止しており、これまでのイメージ通りの産業理学療法の実践は社会的に価値がなくなっている。

我々が「未来への挑戦」をする際に重要な点は、「正しい方向に挑戦しているか」「正しい量、挑戦しているか」であるため本講演ではその挑戦の方向と量について説明することで、普段の業務改善や未来へのヒントとしていただきたい。

Meet the Mentor

Meet the Mentor企画からのメッセージ

Meet the mentor は、普段、身近に接する機会の少ない先生方 (mentor) と、テーブルを囲み、語り合うカジュアルなミーティングです。理学療法の各分野にて第一線で活躍されている mentor がこれまで歩んできた経験や専門家としての生き方や考え方など講演では聴くことができない貴重な話を伺ってみませんか。参加受付方法などの詳細は、県士会メール通信および第30回愛知県理学療法学会大会ホームページをご参照ください。

Meet the Mentor 1 早期理学療法を語ろう

- ・メンター：東海記念病院 (星城大学名誉教授) 江西 一成
- ・コーディネーター：東海記念病院 井戸 尚則

Meet the Mentor 2 脳卒中の理学療法を語ろう

- ・メンター：愛知医科大学病院 河尻 博幸
- ・コーディネーター：中部リハビリテーション専門学校 柳瀬由起子

会場：第5会場 (2号館3階 232 + 233号室)

2022年4月23日 (土) 16:40 ~ 17:40

.....

Meet the Mentor 3 腰痛の理学療法を語ろう

- ・メンター：名古屋学院大学リハビリテーション学部 青木 一治
- ・コーディネーター：名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 上原 徹

Meet the Mentor 4 糖尿病の運動療法を語ろう

- ・メンター：東都大学幕張ヒューマンケア学部 横地 正裕
- ・コーディネーター：さくら総合病院 磯村 隆倫

会場：第5会場 (2号館3階 232 + 233号室)

2022年4月24日 (日) 10:20 ~ 11:20

市民公開講座

生きがいに繋がるリハビリテーション ～音楽と医療のコラボレーション～

講師：愛知県立芸術大学 教養教育教授

名古屋大学予防早期創生センター 客員教授 石垣 享

司会：愛知医科大学病院 岸川 典明

会場：第1会場(1号館センチュリーホール)

2022年4月24日(日) 14:00～15:00

呼吸器の在宅リハビリテーションの主な方法は、屋外での歩行であり、そのアウトカムは歩数または距離となる。日本は四季があり、1年間を通じて歩行に相応しい温暖な気候ではない。特に、夏季の猛暑や冬季の寒冷環境に加えて、風、雨、雪などの気象条件は、屋外での歩行を安全に行うことが出来ず、在宅リハビリテーションの継続性に物理的限界が存在する。

芸術大学で体育の授業を履修した女子学生の中で、声楽および管打楽器専攻の学生の下部胸囲および臍部腹囲の最大囲と最小囲の差は、音楽の他専攻の学生および美術学部の学生よりも有意に大きく、肺活量も同様の結果であった。このことは、本格的な日々の音楽トレーニングが呼吸に関連する生理学的な機能を向上させることを示している。歌唱は、ブレスコントロールが必須なことから、呼吸筋の活動を高めることについて容易に理解できる。そうすると、歌唱は、屋内で安全に呼吸筋を鍛えることができる活動ともいえる。それ以外の面では、歌を歌うことの楽しみや、精神的なストレスの解消として、さらに、合唱等で多くの人達との交流も可能であることから、生涯に亘る生き甲斐を提供することもできる。

現在の日本では、「人生、100年」と言われ始めている。2021年時点で日本の100歳以上の高齢者は、8万6千人を超え、高齢者数および総人口に占める高齢者の割合も含めて約半世紀の間、毎年のように記録を更新している(総務省統計局, 2021)。今後の日本では、高齢者の医療費および介護費の制度を変えることで支出を抑えるのではなく、これらの社会保障費を使用する期間を短縮させる(ちなみに、早く死ねと言っているのではない)ことで支出を抑制する戦略も必要とされる。その際に、スポーツや運動ではない文化的な活動により身体機能を向上させる新たな取り組みを創出することは、誰もが取り組み易い健康向上のためのプログラムになると考えている。

総務省統計局(2021)統計からみた我が国の高齢者－「敬老の日」にちなんで－

プログラム

2022年4月23日(土)

セクション1【特別セッション①】 第2会場(2号館1階 211+212号室)

4月23日(土) 10時20分～11時20分

座長：中部労災病院 江口 雅之

- OS-1 長期安静臥床が必要な化膿性脊椎炎保存治療者の離床後在院日数と
早期歩行練習との関連
独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院 本村 聖也
- OS-2 腰部脊柱管狭窄症術後の6分間歩行距離の反応性とMCID
あさひ病院 竹中 裕人
- OS-3 膝前十字靱帯(ACL)再建術後症例における術後12ヶ月の伸展制限に対する
術後早期のカットオフ値の検討
医療法人桂名会 重工記念病院 安井淳一郎
- OS-4 人工膝関節全置換術1年後の術後遷延痛に影響する術前・術後急性期の要因分析：
ROC解析による検討
医療法人利靖会 前原外科・整形外科 小児科 朝倉 淳弥

セクション2【特別セッション②】 第2会場(2号館1階 211+212号室)

4月23日(土) 15時20分～16時20分

座長：豊橋創造大学 金井 章

- OS-5 重症脳性麻痺児の骨盤形態と座位時重心位置との関係
国際医学技術専門学校 理学療法学科 増田 一太
- OS-6 外傷性頸髄損傷運動完全四肢麻痺者における移乗動作の達成に関する因子の検討
独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院 犬飼 恵美

OS-7 通所リハビリテーション利用者を対象とした行動変容プログラムの短期的効果の検討
介護老人保健施設 メディコ阿久比 榊原 和真

OS-8 客観的臨床能力試験の評価者間一致を向上させる評価者教育プログラムの考案と
その効果
藤田医科大学 渡 哲郎

口述【若手特別セッション】 第2会場(2号館1階 211+212号室)

4月23日(土) 14時10分～15時10分

座長：中部大学 矢澤 浩成
国立長寿医療研究センター 伊藤 直樹

YS-1 脳卒中後遺症者に対する ACSIVE を併用したトレッドミル歩行練習の効果
医療法人珪山会 鶴飼リハビリテーション病院 向 涼太

YS-2 変形性膝関節症に対する shared decision making による運動処方が
運動アドヒアランスと疼痛症状に与える影響
前原整形外科リハビリテーションクリニック 本田 太一

YS-3 セルフマネジメント教育を強化し不安と抑うつ症状が軽減した間質性肺炎患者の一例
名古屋大学医学部附属病院 武内 咲希

YS-4 人工股関節置換術および人工膝関節置換術を同時施行した症例の下肢筋力および
疼痛の変化について
名古屋市立緑市民病院 大森 陽太

YS-5 結帯動作の肩甲上腕関節と肩甲骨運動の実態調査
～拘縮肩患者と健常者との比較～
いえだ整形外科リハビリクリニック 平野 航士

口述1【運動器①】 第3会場(2号館2階 224号室)

4月23日(土) 10時20分～11時20分

座長：春日井整形外科 水谷 仁一

- O1-1 特発性大腿骨頭壊死に対する両側骨切り術後に左側中殿筋のみ筋力回復に難渋した症例
医療法人六寿会 白川 絢日
- O1-2 セメントステムを使用した両側同時人工股関節置換術後の下肢筋力の推移の報告
名古屋市立緑市民病院 墨 祐貴
- O1-3 人工股関節全置換術後、膝蓋骨不安定症を有する症例の股関節機能改善に向けた理学療法の経験
愛知医科大学病院 丹村 圭佑
- O1-4 大腿骨転子部骨折術後の除痛目的に経皮的電気神経刺激を併用した一例
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 坂本 瑞希
- O1-5 ガンマネイルカットアウト後のTHA＋骨接合術例の経験
一宮市立木曽川市民病院 黒井 直矢

口述2【神経①】 第4会場(2号館3階 234号室)

4月23日(土) 10時20分～11時20分

座長：豊橋市民病院 神谷 昌孝

- O2-6 重度脳卒中片麻痺患者における縦手すりを併用した歩行練習の効果
医療法人桂山会 鶴飼リハビリテーション病院 三田 琢磨
- O2-7 急性期脳梗塞患者に対し傾斜台を用いた立位練習を行いバランス能力向上に至った一症例
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 松元 大修

- O2-8 A型ボツリヌス治療後の斜面板を使用した立位訓練と電気刺激が
歩行能力に与える影響
名古屋市総合リハビリテーションセンター 生田 旭洋
- O2-9 延髄外側梗塞後に Lateropulsion を生じ退院先の予測に難渋した一例
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 飯田 優香
- O2-10 活動意欲の低下に対し応用行動分析が効果的であった一症例
相生山病院 梅崎 千春

口述3【生活環境①】 第5会場(2号館3階 232+233号室)

4月23日(土) 10時20分～11時20分

座長：医療法人啓友会 宮崎整形外科・外科・内科 井戸田 学

- O3-11 対象者の年齢と評価項目間の差異の検討
常葉大学 青山 満喜
- O3-12 デイケア利用者における COVID-19 の身体機能および心理面への影響について
老人保健施設尽誠苑 辻 美幸
- O3-13 地域高齢者における食欲低下と精神心理的要因、社会的背景の関連性
東海記念病院 則竹 賢人
- O3-14 名古屋市北区地域リハビリテーションネットワーク活動報告
社会医療法人愛生会 上飯田リハビリテーション病院 川瀬 修平
- O3-15 地域包括ケア病棟における Short Physical Performance Battery の有用性の検討
JA愛知厚生連 足助病院 後藤 亮吉

口述4【運動器②】 第3会場(2号館2階 224号室)

4月23日(土) 14時10分～15時10分

座長：吉田整形外科あいちスポーツクリニック 篠田 光俊

- O4-16 右足関節外側側副靱帯損傷後、立脚終期に右外果周囲に疼痛が出現した一症例
－腓骨筋群の動態に着目して－

平針かとう整形外科 畔柳 瑛一

- O4-17 足関節両果骨折に加え合併症の影響により動作能力の低下を呈した一例

豊田東リハビリテーション病院 伊田 匡志

- O4-18 交通事故で脛骨遠位端開放骨折、膝関節周囲骨折、ACL損傷を
同時に受傷した一症例の理学療法の経験

トヨタ記念病院 鈴木 敦

- O4-19 人工距骨置換術後に歩行時痛を呈し、独歩が困難であった一症例
～下腿のアライメント修正に着目して～

医療法人桂名会 重工記念病院 山田伽未音

- O4-20 バレリーナにおける足関節三角骨障害術後の理学療法の経験

井戸田整形外科名駅スポーツクリニック 平野佳代子

口述5【運動器・神経①】 第4会場(2号館3階 234号室)

4月23日(土) 14時10分～15時10分

座長：藤田医科大学 土山 和大

- O5-21 頸髄不全損傷者に対するウェルウォーク WW-1000を使用した歩行練習の経験

医療法人珪山会 鶴飼リハビリテーション病院 柴田 将寛

- O5-22 認知症を有した人工骨頭置換術後症例の理学療法士に対する依存性と
痛みおよび運動機能の関連

医療法人愛仁会 名春中央病院 小澤 和馬

O5-23 脊椎内視鏡術後に両下肢の筋力低下を認めた腰椎椎間板ヘルニア患者の長期経過
医療法人桂山会 水口 剛司

O5-24 急性期ギランバレー症候群に対するベルト式骨格筋電気刺激法が
筋力・歩行能力に与える影響
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 宮本龍太郎

O5-25 封入体筋炎患者に対するHAL医療用下肢タイプを用いたリハビリテーションの
介入効果 ～膝折れに着目して～
医療法人大朋会 岡崎共立病院 森 将太

口述6【教育管理】 第5会場(2号館3階 232+233号室)

4月23日(土) 14時10分～15時10分

座長：八千代病院 松山 太士

O6-26 特別支援学校との連携事業の効果と今後の課題
医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 仲村我花奈

O6-27 開院2年半の心臓リハビリテーション病院の対象患者の傾向を振り返る
医療法人馨仁会 豊田東リハビリテーション病院 瀬瀬 良

O6-28 理学療法学生を対象とした患者とのコミュニケーションに関するアンケート調査
中部リハビリテーション専門学校 柳瀬由起子

O6-29 外来心臓リハビリテーションは高齢者の社会活動を促すか
豊橋市民病院 神谷 猛

O6-30 当院リハビリテーション職員における仕事に対する態度やストレス対処能力が
疲労蓄積度に対して与える影響
東海記念病院 後藤 文彦

口述7【運動器③】 第3会場(2号館2階 224号室)

4月23日(土) 15時20分～16時20分

座長：名古屋学院大学 城 由起子

- O7-31 脊椎圧迫骨折による急性疼痛改善後、病前より存在する慢性疼痛が増悪した患者の回復過程

かわな病院 村上 龍太

- O7-32 脛骨神経の滑走障害が起因となった膝窩部痛の一考察

よしだ整形外科クリニック 田中 紀輝

- O7-33 肋間神経外側皮枝由来の疼痛が疑われた1症例

医療法人慈和会 吉田整形外科病院 上杉 拓馬

- O7-34 多発外傷症例に対しチルトテーブルと超音波画像診断装置を用いた介入が歩行早期獲得につながった一例

トヨタ記念病院 行徳 真波

- O7-35 遺伝性多発性外骨腫による総腓骨神経麻痺を呈した一症例
～超音波画像診断装置を用いた病態解釈～

いえだ整形外科リハビリクリニック 深津 聖

口述8【内部障害①】 第4会場(2号館3階 234号室)

4月23日(土) 15時20分～16時20分

座長：名古屋大学医学部附属病院 水野 陽太

- O8-36 新型コロナウイルス感染後に慢性呼吸不全を呈し在宅酸素療法が必要となった一症例への理学療法介入報告

鵜飼病院 岩間 基

- O8-37 気腫合併肺線維症に慢性進行性肺アスペルギルス症を合併した症例に対する運動療法の経験

社会医療法人杏嶺会 一宮西病院 浅野 誠

- O8-38 特発性肺線維症急性増悪における急性期理学療法介入を実施した一例
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 曾根 一輝
- O8-39 1回換気量が低下し人工呼吸器離脱困難となった患者に理学療法を行った経験
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 市橋理恵子
- O8-40 評価に基づく呼吸理学療法と多職種連携が人工呼吸器離脱に至った一症例
公立陶生病院 伊藤 有紀

口述9【神経②】 第5会場(2号館3階 232+233号室)

4月23日(土) 15時20分～16時20分

座長：中部リハビリテーション専門学校 畑迫 茂樹

- O9-41 延髄外側梗塞で生じたBody lateropulsionの臨床経過と損傷部位の関係
愛知医科大学病院 田中 拓哉
- O9-42 脳卒中患者における回復期リハビリテーション病棟退棟3ヶ月後の
復職状況および課題
偕行会リハビリテーション病院 澤島 佑規
- O9-43 障害者支援施設における脳卒中者の実用的移動能力分類の推移
名古屋市総合リハビリテーションセンター 鈴木 美紗
- O9-44 Boaシステム付きリーフットの有効性
～装具装着時間について～
愛知医科大学メディカルセンター 奥西 扶実
- O9-45 中等度以上の運動麻痺を有する脳卒中片麻痺患者の屋内歩行自立の予測
鵜飼リハビリテーション病院 小倉 峻

口述10【運動器④】 第3会場 (2号館2階 224号室)

4月23日(土) 16時30分～17時45分

座長：トヨタ記念病院 坂田 淳

O10-46 男子ハンドボール選手における上腕骨小頭離断性骨軟骨炎術後の一症例
～円回内筋に着目して～

萩原整形外科 リウマチクリニック 安藤 祐輝

O10-47 Struther's arcade部の尺骨神経障害により肘内側部痛を呈した一症例
－胸郭の可動性と投球動作に着目して－

吉田整形外科 人工関節クリニック 竹谷 唯

O10-48 結帯動作改善に着目した右肩下方関節唇損傷の一症例

医療法人 ようてい会 小牧ようてい記念病院 後藤 大喜

O10-49 上腕骨外側上顆炎に対して手内在筋の治療が奏功した一症例

医療法人慈和会 吉田整形外科 あいちスポーツクリニック 片山 遥

O10-50 運動量の配慮が奏功した基節骨頸部骨折術後の一症例

医療法人服和会 服部整形外科皮フ科 鈴木 拓也

O10-51 β -TCPを骨欠損部補填に用いた上腕骨内軟骨腫搔爬術後の一症例
～ β -TCPの単純X線画像上変化に伴う運動療法～

うめだ整形外科 竹下 和義

口述11【運動器・神経②】 第4会場 (2号館3階 234号室)

4月23日(土) 16時30分～17時45分

座長：名古屋大学 長谷川隆史

O11-52 外傷性脊髄損傷者の異所性骨化発生に関する要因

独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院 本村 聖也

O11-53 成人脊柱変形患者における立位バランスと体幹筋断面積の関係

国家公務員共済組合連合会 名城病院 渡辺 裕貴

- O11-54 脊髄損傷不全麻痺患者において ASIA Impairment Scale の入院時 C が
退院時 D となる要因についての研究
独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院 杉山 統哉
- O11-55 腰部疾患患者の初期評価時の痛みと心理的要因の関連性
～有訴部位と強度，疾患に着目して～
医療法人整友会 豊橋整形外科江崎病院 相山 陽喜
- O11-56 患者立脚型評価の重要性について
～腰部患者の症状の有訴部位と心理的障害の重症度に着目して～
豊橋整形外科鷹丘クリニック 吉田 周平
- O11-57 Draw-in ベルト装着による体幹筋筋厚の変化
～超音波画像診断装置を用いた検討～
豊橋市民病院 馬渡 敬介

2022年4月24日(日)

セクション3【特別セッション③】 第2会場(2号館1階 211+212号室)

4月24日(日) 9時00分～10時00分

座長：愛知医科大学病院 飯田 博己

- OS-9 心臓外科術後に低心拍出症候群が遷延した症例に対し、
入院中より身体活動量計を用いて活動調整を行った経験
名古屋ハートセンター 藤山 裕晃
- OS-10 左大腿骨転子部骨折受傷後に重度の大動脈弁狭窄症を指摘され、
TAVI及び骨接合術を施行された1症例
愛知医科大学病院 小栗 陽花
- OS-11 歩行時の体幹前傾によって腰痛および呼吸苦が出現した症例に対する
理学療法評価について
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 吉原 彬
- OS-12 大腿骨近位部骨折患者に対する体重免荷トレッドミルトレーニングの
効果に着目した一症例
医療法人社団喜峰会 東海記念病院 多田 拓生

口述12【運動器・神経③】 第3会場(2号館2階 224号室)

4月24日(日) 9時00分～10時00分

座長：星城大学 大古 拓史

- O12-58 成人脊柱変形における冠状面アライメントと重心動揺の比較
国家公務員共済組合連合会 名城病院 櫻井 伸哉
- O12-59 経皮的内視鏡下腰椎椎間板摘出術(PELD)術後患者において理学療法介入が
満足度に与える影響
あいちせぼね病院 飯田 有香

- O12-60 当院外傷性頸髄損傷不全四肢麻痺者における移乗動作達成の実態調査
独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院 曾我 大
- O12-61 当院回復期リハビリテーション病棟設立前後の脊髄損傷患者の身体機能や
ADL、転帰の変化
独立行政法人労働者健康安全機構 中部労災病院 野崎 和哉
- O12-62 小・中・高校生腰椎分離症保存例に対する野球部と陸上部の初診時の特徴
はしら整形外科リハビリクリニック 村上 将

口述13【運動器・基礎①】 第4会場(2号館3階 234号室)

4月24日(日) 9時00分～9時50分

座長：三河青い鳥医療療育センター 伊藤 忠

- O13-63 下腿の筋・筋膜へ介入を行った際の柔粘性向上が筋の出力に及ぼす
経時的影響について
豊橋整形外科鷹丘クリニック 川口 聖史
- O13-64 他動的肩甲骨挙上の安静時頸部痛軽減効果について
豊橋整形外科 向山クリニック 朴 将允
- O13-65 演奏ツールを用いた運動療法の可能性
医療法人三仁会 あさひ病院 小河原將央
- O13-66 低侵襲心臓外科手術と正中切開手術の強度別入院期身体活動量に関する検討
愛知医科大学病院 山本 将大

口述14【生活環境②】 第5会場(2号館3階 232+233号室)

4月24日(日) 9時00分～10時00分

座長：国立長寿医療研究センター 渡邊 良太

- O14-67 COVID-19による緊急事態宣言発令に伴う外来リハビリテーションの休止が慢性呼吸器疾患患者に及ぼす影響
平松内科・呼吸器内科 小牧ぜんそく睡眠リハビリクリニック 秋山 歩夢
- O14-68 回復期病棟における骨折患者のサルコペニアと認知機能との関連
－後ろ向き横断研究－
鵜飼リハビリテーション病院 石亀 正成
- O14-69 認知症患者への痛み評価に関するアンケート調査
－愛知県内の理学療法士を対象として－
川島病院 若月 勇輝
- O14-70 当院で開発した簡易式基本動作チェック表の妥当性と信頼性の検討
鵜飼病院 浦田 祥吾
- O14-71 超高齢者における退院先とSPPBとの関連性の検討
愛知県厚生連 足助病院 羽場 桃子

口述15【運動器・基礎②】 第3会場(2号館2階 224号室)

4月24日(日) 10時20分～11時20分

座長：重工記念病院 安井淳一郎

- O15-72 足趾変形の有無が2ステップテストに与える影響について
大地整形外科 松田 大輝
- O15-73 整形外科クリニック外来患者の自宅運動を促す新たな取り組み
富貴ノ台整形外科 小沢 勇貴
- O15-74 人工膝関節全置換術前後の身体活動量変化と臨床症状・運動機能との関連
愛知医科大学 岡本 卓也

O15-75 術前の歩行能力別にみた人工膝関節全置換術後3か月の膝関節機能と歩行能力
愛知医科大学病院 石田 朋大

O15-76 人工膝関節全置換術(TKA)術前患者における歩行能力と膝関節可動域、
筋力、疼痛の関連について
重工記念病院 榛地 佑介

口述16【内部障害②】 第4会場(2号館3階 234号室)

4月24日(日) 10時20分～11時20分

座長：名古屋大学医学部附属病院 土川 洋平

O16-77 長期臥床後の離床と軽症脳梗塞発症後の運動負荷に苦慮した
低心機能重症心不全の一例
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 桐山紗矢香

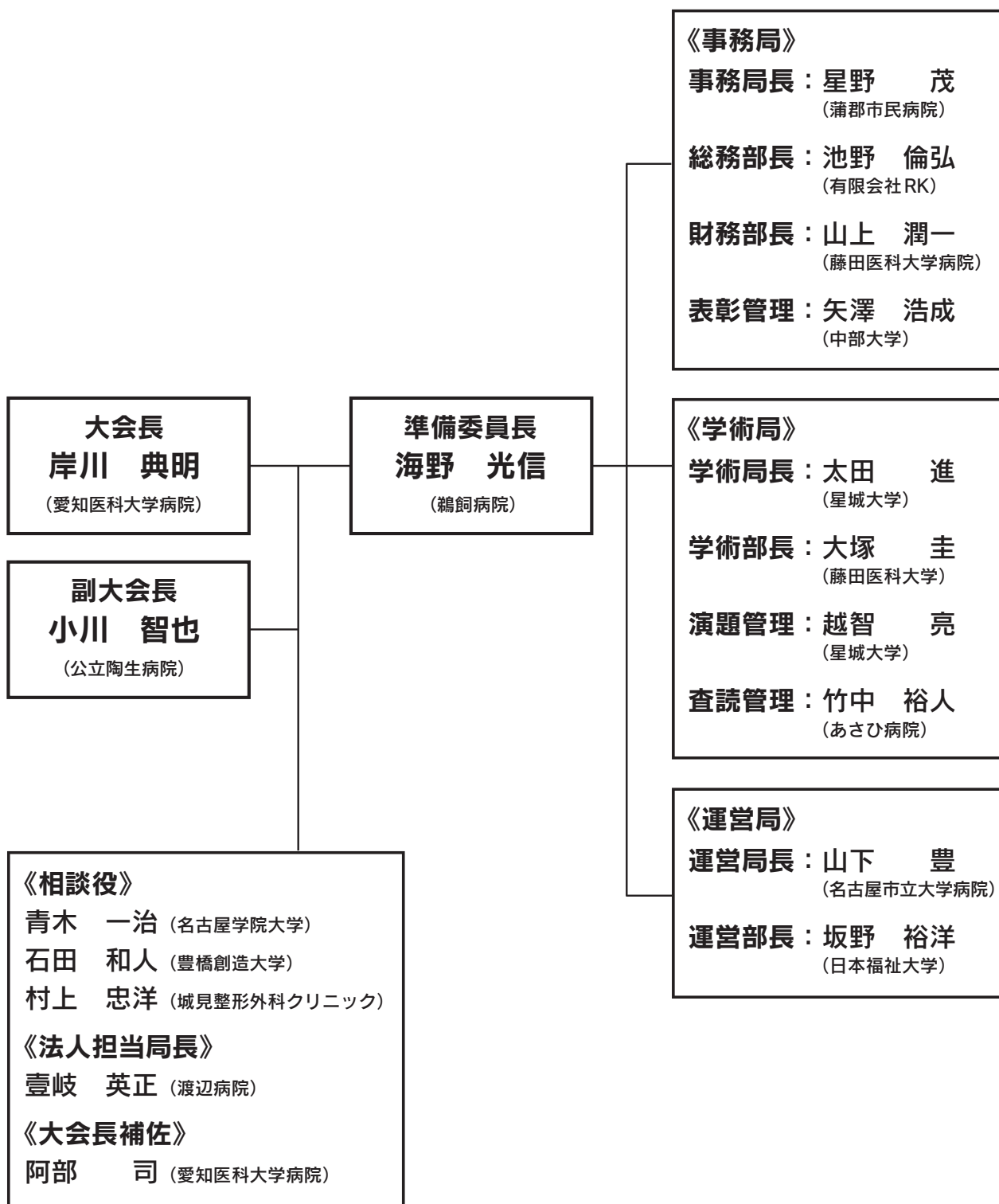
O16-78 労作時酸素化不良を認める気腫合併肺線維症患者に対して
ベルト電極式骨格筋電気刺激療法を用いた一介入
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第二病院 西川 奈佑

O16-79 心臓外科手術を施行した18トリソミー児に対し、ストレスサインに留意して
理学療法を行った経験
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 伊藤美早紀

O16-80 在宅復帰を目的とした高齢心臓外科手術後症例の地域包括ケア病棟での臨床経験
東海記念病院 和田枝里香

O16-81 2度の大動脈人工血管置換術後進行したフレイルからの脱却に至った一例
名古屋ハートセンター 田中 瑞希

組 織 図



運 営 委 員

会場	氏名	所属施設	会場	氏名	所属施設
第1会場	飯田 博己	愛知医科大学病院	第4会場	渡辺 将弘	東海記念病院
	河尻 博幸	愛知医科大学病院		後藤 文彦	東海記念病院
	安江由美子	愛知医科大学病院		植村亜沙美	東海記念病院
	尾関 圭子	愛知医科大学病院		西川 萌	東海記念病院
	森本 泰行	愛知医科大学病院		平岩正太郎	東海記念病院
	丹村 圭佑	愛知医科大学病院	第5会場	富澤 孝太	前原外科・整形外科
	水谷 文哉	愛知医科大学病院		永井 杏亮	前原外科・整形外科
	有田 昂平	愛知医科大学病院		右近 海都	前原外科・整形外科
第2会場	中橋 亮平	鵜飼リハビリテーション病院		服部 貴文	前原整形外科リハビリテーションクリニック
	牧 芳昭	鵜飼リハビリテーション病院		佐藤 真美	前原整形外科リハビリテーションクリニック
	山田 貴洋	大門訪問看護ステーション	受 付	伊藤 直樹	国立長寿医療研究センター
	吉村 美咲	鵜飼病院		谷本 正智	国立長寿医療研究センター
	横地 由大	中部リハビリテーション専門学校		大矢 湖春	国立長寿医療研究センター
第3会場	水谷 元樹	一宮西病院		野村 悠乃	国立長寿医療研究センター
	浅井 琢也	一宮西病院		石川 実樹	国立長寿医療研究センター
	八木 紫門	一宮西病院			
	川添 翔大	一宮西病院			
	安井 高宏	一宮西病院			

愛知県理学療法学会誌
プログラム集

2022 年 3 月

発 行 特定非営利活動法人 愛知県理学療法学会
〒460-0002

名古屋市中区丸の内3-18-1

三晃丸の内ビル 601

TEL (052) 972-7211

理事長 石田 和人

編 集 第30回愛知県理学療法学会大会準備委員
学術局 学術誌部

印 刷 名古屋大学生協印刷部